

2010年8月3日

第5回反トヨタ世界キャンペーンを成功させよう！

トヨタ本社への抗議と要請の団体署名のご協力を。

フィリピントヨタ労働組合(TMPCWA)
執行委員長 エド・クベロ
フィリピントヨタ労組を支援する会
共同代表 山際 正道

今こそ解決を求めて、多国籍企業トヨタ自動車本社への圧力を。

フィリピントヨタ労組に対する日頃の皆様のご支援に厚く御礼を申し上げます。

フィリピントヨタ労組の正義の闘いは、今、大きな山場に差し掛かっています。

2000年、フィリピントヨタ社において自主的に結成されたフィリピントヨタ労組に対し、トヨタは、団体交渉を拒否、組合員233名を解雇、刑事告発、そして御用組合の結成、工場内に軍隊を駐屯させるなどと、あらゆる攻撃を掛けて来ました。

ILOは、このフィリピントヨタ労組つぶしに対し、毎年、フィリピン政府を通し、一日も早い解決(組合承認、解雇撤回、組合幹部に対する暗殺の危機の除去など)を求める勧告を出し続けて来ました。

しかし、一向に進まない事態に、昨年9月フィリピン政府に対して、ILO高位使節団を派遣、現地でフィリピン政府はもとより、フィリピントヨタ社、そしてフィリピントヨタ労組からも事情を聴取、12月には正式な報告書を発表しました。

それを受けて、フィリピン政府も、これまでの経過(フィリピン最高裁が解雇有効としたことなど)にとられない解決をはかるための努力することを明言するに至りました。

言うまでもなくこの争議は、多国籍企業トヨタが、フィリピンにおいて自分に尻尾を振らないような自主的な労働組合の存在を一切認めない、ということから始まっています。しかし、そのようなトヨタの政策は、この間、フランスや中国やタイなどで、労働者のストライキという形で打ち破られて来ています。アメリカでのリコール問題でみられるように、「トヨタはトヨタのやり方で」は全く通用しなくなっているのです。

フィリピントヨタ争議では、ILO、そしてIMF(国際金属労連)が、全面的に、解決のための後押しをして来ました。

10年たった今も、解雇者たちは闘い続け、そして職場の中では、会社が作った御用組合に負けず、今のところ少数とはいえ、フィリピントヨタ労組は解雇撤回、職場復帰、組合承認を強く求めています。前アロヨ政権当時から、この問題の解決に積極的だった労働雇用省バルドス次官が今回アキノ新政権で、長官に就任しました。

10年にわたるこの争議の解決は今、まさにトヨタ本社の決断にかかっているのです。

ところが、現地トヨタはこの状況に逆らうかのように、去る6月25日に突如、最後の悪あがきとも思える、配転を巡っての現職組合員(副委員長を含む9名)たちへの虚偽のでっち上げ嫌疑で予防的停職処分という暴挙を起こし、8月3日にはその内の4名に対し解雇処分を行って来ました。

私たちは皆さんに、トヨタに処分を即時停止させ、解決への決断を促す、皆さんからの抗議と要請の署名を寄せていただくようお願い致します。

(別紙の抗議と要請の用紙に署名をして、2010年9月15日までに下記送付先までお送り下さい。)

フィリピントヨタ労組を支援する会

〒237-0063 神奈川県横須賀市追浜東町3-63-901

【TEL / FAX】 046-866-4930

【ホームページ】http://www.green.dti.ne.jp/protest_toyota/ 【e-mail】 [protest-toyota\(at\)list.jca.apc.org](mailto:protest-toyota(at)list.jca.apc.org)